

横浜市会議員 山崎 誠

ヨコハマ市政レポート

<http://makoto5050.net>

## 指定管理者制度への移行が進んでいます

横浜市会議員の山崎誠より、6月の市政についてレポートいたします。6月23日の本会議をもって、横浜市会平成18年第2回定例会が閉会しました。本会期中では、横浜市基本構想（長期ビジョン）のほか、指定管理者制度に関わる案件など一般議案42件、予算議案(補正予算)1件が審議可決されました。



### 3分間でわかる 山崎誠の「ヨコハマ市のここがポイント！」

本レポートでお伝えしたいポイントをチャート式でまとめました。詳細は2ページをお読みください。

#### 指定管理者制度の現状は？

平成15年9月より「公の施設」の管理運営に指定管理者制度が導入され、以来、委託先が公共的団体等に限定されていた施設の管理運営について、民間事業者も含めた幅広い団体に委ねることが可能になりました。

指定管理者制度への移行は段階的に進められており、平成18年の第2回定例会での議案採択後、**指定管理者制度導入施設が821施設**になりました。民間の経営ノウハウ、民間活力を活用した行政サービスの実現が進んでいます。一方で課題もあります・・・

#### 具体例

##### 脳血管医療センターに併設する介護老人保健施設への指定管理者制度の導入

【脳血管医療センターの基本コンセプト】  
治療からリハビリテーションまで一貫してサポートする  
大きな安心！

センターからの患者の受入れのために常時、ベッドの空きを確保する必要あり

矛盾  
衝突

指定管理者は、採算を考え利用率を上げるために、空きベッドは作りたくない

老健施設を指定管理者が運営する場合、センターと関係の取れた医療的ケア提供の体制が維持できるか？基本コンセプトを維持できるか？  
難しいのではないか！

#### 山崎誠の視点と主張

- 施設ごとの固有のコンセプト、基本理念を守るために、指定管理者制度のきめ細かな運用が必要
- 指定管理者制度の継続的な評価と見直しの仕組みづくりが求められる
- 指定管理者制度推進の明確な目標設定が必要

近況報告

5月31日から6月23日まで、平成18年の第2回定例会（議会）が開催されました。私にとって初の定例会になりましたが、一通り議会の審議・議決の流れを経験することができ、議員として活動が見えてきました。9月の第3回定例会では一般質問に立ちます。



指定管理者制度の意義

指定管理者制度の目的は、「多様化する市民ニーズに、より効果的、効率的に対応するため、公の施設の管理に民間のノウハウを活用しながら、市民サービスの向上と経費の節減を図る」点にあります。行政サービス改革の核となる制度です。

指定管理者制度導入の進捗状況は？

導入施設821という数字は、横浜市が管理する施設のどのくらいの割合になるのか？指定管理者制度を導入予定の施設は全体でいくつくらいになるのか？そのうちの何割が完了しているのか？等を当局に質問してみましたが、明確な回答が得られませんでした。どういう方針で指定管理者への移行を進めているのか、また今後、進めるつもりなのか疑問です。追求してゆきます。

指定管理者制度への移行が進んでいます

(2006年6月16日 ども青少年・健康福祉・病院経営委員会にて)

平成15年9月の改正地方自治法の施行により、「公の施設」(たとえば、地区センター、スポーツセンターなど身近な施設から横浜美術館、みなとみらいホール、横浜歴史博物館、日産スタジアムなどといった大規模な施設まで)の管理運営に**指定管理者制度**が導入され、従来、委託先が公共的団体等に限定されていた施設の管理運営について、**民間事業者も含めた幅広い団体に委ねることが可能**となりました。段階的に進められてきた、指定管理者制度への移行ですが、平成18年の第2回定例会での議案採択後、**指定管理者制度導入施設が821施設に、そのうち指定管理者の指定済施設が814施設**となりました。民間の経営ノウハウ、民間活力を活用した行政サービスの実現が進んでいます。

一方、指定管理者制度の運用については、課題のある事例が出てきています。例えば、6月16日のども青少年・健康福祉・病院経営委員会において、**脳血管医療センターに併設する介護老人保健施設への指定管理者制度導入**について議論されました。本来、脳血管の疾患を患った方が、急性期の治療をセンターで受け、引き続き併設する介護老健施設でリハビリテーションを受けるという、一貫したサポート体制の実現をコンセプトとしたセンターでしたが、指定管理者制度を導入してもこのコンセプトを維持することができるかが問題となりました。当局の説明では、指定管理者と綿密な連絡調整を行うことでセンターと老健施設との関係を図ることが可能であるとの回答でしたが、具体的な調整方法についてはこれから検討するとのことでした。病院経営の観点からは、空きベットをつくらない効率的な病床の利用が重要であり、一方、センターとの関係という観点からは、常時、空きベットを確保する必要もあり、この間の調整を図らねばなりません。

指定管理者制度の導入に当たっては、**施設ごとの特徴、特殊性をしっかりと把握した上で、個々の施設にあった指定管理者制度の運用が必須**となります。この点、これから指定される指定管理者はもちろんのこと、すでに動き出している指定管理者についても、適宜、本来予定していた運営が実現できているかどうかを各施設個別にチェックしてゆく必要があります。



写真はアートフォーラムあざみ野

## 「ヨコハマ、青葉の夢を語る」進捗状況

公約として掲げております「青葉の夢」実現の主な進捗状況をご報告いたします。幅広く収集した情報、アイデアをベースとした提案型の議員活動を目標にしています。11月の中間発表を目指して、検討を進めます。

タイトル	状況	進捗
MMコミュニティーハブ 青葉（市民の皆さまに開かれた事務所運営）	NPOとの協働による運営に着手しています。情報収集・発信の場、仲間が集える環境をつくりま	40%
あおば公園プロジェクト （安全で個性的な遊び場・公園づくり）	公園の環境整備（水質浄化など）、プレイパークについて検討を開始しました。子どもたちが本当に伸び伸びと遊ぶことができる環境とは何か追求してゆきます。	20%
ふるさと安心サポート （お年寄りの皆さまが安心して暮らせる街づくり）	在宅生活支援システムについて研究を進めています。システムのデモなどを見てきました。現場の視察も予定しています。街のインフラ整備として、マンホールの滑り止め技術、ミニ共同溝、エスコートライン（視覚障害者の新しい誘導設備）などについて研究中。	30%
高齢パワー活用研究発表会（シニアパワーの有効活用）	高齢パワー活用の会を応援しています。おおよそ隔週で開催されます講演会・討論会・勉強会のデータベース化、参加者の皆さまのネットワークづくりに取り組みます。	30%



### 市民が主役

7月2日（日）青葉公会堂にて「第12回青葉コーラスのつどい」が開催されました。36団体、1000名を超える方が参加、それぞれの持ち時間（8分間）を最大限使って、日頃の練習の成果を披露されました。どの団体も個性豊かでレベルの高い合唱祭となりました。（私の息子・娘も以前「あおばキッズ」という

子どものコーラスグループに属しており、度々参加させていただきました）

今回はコンサートの模様をプロのカメラマン、録音技師により収録、DVDを制作して参加者に無料配布するという試みをご紹介します。実現させました。地元の企業の皆さまにスポンサーとしてご協力いただき、DVDにコマーシャルを載せることで無料配布を実現します。民間企業の力をうまく活用して芸術文化振興事業を発展させることができればと思います。

身近な市民の皆さまの活動を応援することで、夢と笑顔の輪を大きく地域で広げることを目標にしています。行政の補助に頼らずに自主自立の精神で、今回のようなすばらしいイベントをもっと盛り上げられたら。

多様な行政サービスの実現、私の夢の一つであります「ヨコハマ音楽祭」に繋げてまいります。



リハーサル風景

### 一月三舟ヨコハマ考

岩國哲人衆議院議員が毎週発表されているコラム「一月三舟」について横浜市の見点から展開いたします。

#### 「四安の農業」

（2006年5月29日）

日本の農業の現状については、農業後継者の不足や農地の荒廃、農作物の自給率の低下、輸入農産物の品質に対する不安等、多くの問題点が指摘されています。岩國哲人氏は次のように提案しています。

**「農地をゼロ・クーポン農地債が政府紙幣発行で購入し、県や市が責任を持って管理し、その公有農地を、平地を中心とする生産農地と中山間地の環境保全農地に区分し、生産農家には自力で競争に勝てるような「生産農力」の向上を期待し、所得の面で不利な中山間地には、環境保全型所得補填を実施する。」**

農地の役割を、生産と環境保全の2つに分けて捉える視点はきわめて重要です。横浜市においても、年々低下していく緑被率（緑に覆われた土地の面積の比率・昭和50年の45.4%から平成16年には31.0%に減少しています）をどのように維持し、あるいは増やしてゆくために、樹林地や農地の保全が重要課題となっています。また、生産地と消費地を一致させる「地産地消」の考え方が横浜市の農業振興の鍵になると考えます。



横浜市の農地の風景

一月三舟の全文は以下のホームページからご覧いただけます。

<http://www.1892.jp>

## 山崎誠を支援するボランティアの会のページ

### ボランティアの皆さまからのメッセージ

十数年のおつきあいのある山崎さんから、ご主人の立候補のことをお聞きしたときは本当にびっくりしましたが、世話好きな方なので、議員さんには打って付け、全面的に応援したいと思い、時々事務作業のお手伝いをするようになりました。

いよいよ選挙戦も始まり、とにかく皆さんに、山崎さんの夢と政策を訴えるには、ピラを見てもらうしかない。とはいえ、ご近所にピラを配るのも初めての体験で抵抗がありましたし、友人知人に呼びかけるのもとても勇気のいるものでした。

ところがある時、グループで家から離れた住宅地まで出向き、手分けをしてポストに入れていくというスタイルの活動に参加したとき、私の中でなにかが切り替わったように思います。ひとりでは不安で心細い活動だったのが、友人たちと力を合わせ、楽しみながらのピラ配りができたことで、自分の行動を肯定することができたのだと思います。新しい友人との出会いと、見知らぬ素敵なお宅やお庭を楽しみながらのウォーキング、こんな機会でもなければできないことでした。

見事当選という結果は、本当に我がことのように嬉しかったです。また時々、お手伝いさせていただこうと思っています。(S.K.)



横浜市議員 山崎 誠

### 連絡先 山崎誠事務所

〒227-0054  
横浜市青葉区しらとり台1-8  
【電話】045-983-6144  
【FAX】045-983-6134  
【E-mail】  
Yamazaki-makoto@s01.itscom.net  
【ホームページ】  
<http://makoto5050.net>

### 山崎誠のプロフィール

1962年生まれ。都立西高校、上智大学法学部法律学科卒業、青山学院大学国際政治経済学研究科国際ビジネス専攻修士課程終了。(株)熊谷組、日揮(株)勤務。アルジェリア、オランダ等での海外勤務を含め国内外の企業の業務改革プロジェクト、事業計画立案にコンサルタントとして参画。青葉区桂台で、妻、一男一女、うさぎの「みんと」と暮らす。趣味は自転車、音楽鑑賞(クラシック、ジャズ、ポップス等)、トロンボーン演奏。

3月26日に投票となりました、横浜市議員青葉区補欠選挙で当選、民間企業出身の市会議員として活動を開始しております。

## 山崎誠事務所からのお知らせ

### ボランティアの日

毎月第1木曜日をボランティアの日といたしました。お茶のみがてら、ご都合の良いお時間に事務所にお寄りください。

8月は3日(木)10:00-16:00 です。

### 市民ご相談日

市民の皆様からのご相談会を毎月第1、3木曜日(10:00-16:00)に開催することといたします。常時、ご相談を受け付けておりますが、特にこの日は終日、予定を空けてお待ちしております。是非ご活用ください。

7月は20日(木)です。